

## 学力向上の取組について

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により各学校では夏季休業の短縮など年間指導計画を見直し、工夫して教育活動を行っています。「全国学力・学習状況調査」が中止になるなかで、各学校が学習内容の理解の状況と課題を丁寧に把握し、課題の改善に向けた取組を進めることが重要です。

感染症の影響下においても、着実に子どもたち一人ひとりの学習内容の理解・定着が進むよう、学校や子どもたちの状況に応じた支援に取り組みます。

施策 221 子どもの未来の礎となる「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成

副指標 目標項目 「全国学力・学習状況調査」における本県の子どもの学力の伸び

現状値 小学生：100.2 中学生：98.3

令和5年度の目標値 小学生：104 中学生：102

### 1 令和2年度上半期の取組

#### (1) 臨時休業中の取組

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業期間中、各市町や各学校では、学習動画や教材コンテンツ、学習プリントの提供、オンラインによるホームルームの実施など、学校や家庭の状況に応じて、子どもたちの学びを止めない取組が進められてきました。
- ・県教育委員会としても、在宅で学習を行っている子どもたちを支援するため、令和2年3月6日に、みえの学力向上県民運動WEBページで小学校1年生から中学校3年生を対象に、基本問題で構成した学習プリントを304シート提供し、5月1日から、ポータルサイト「みえびい学びの応援サイト」を開設しました。
- ・「みえびい学びの応援サイト」では、学習プリントに加え、新たに、小学校低学年向けの国語、算数の基礎的な内容や理科実験、工作に関わる動画を作成し、5月1日から、随時、配信(21本)しています。あわせて、インターネット環境が整っていない子どもたちにも幅広く届くよう、三重テレビ放送を活用して「三重県子どもの学び応援チャンネル」を開設し、これらの動画を放映(5月14日～5月29日)しました。

#### (2) 学校再開後の取組

##### ① 小中学校の教育活動の工夫

各学校では夏季休業の短縮など年間計画を見直し、工夫して教育活動を行っています。

##### ア 授業における工夫例

- ・電子黒板を活用し、例えば、理科では、観測・観察しにくい現象を動的にシミュレーションして提示したり、数学では関数や図形などの変化の様子を可視化したりして提示。
- ・学習動画を作成し、授業や家庭学習(復習)に活用。

##### イ 学校行事等の工夫例

- ・運動会は、種目数の減、各学年で実施時間の変更、保護者の参観時間の調整等を行い実施。団体種目は、密にならないようなルールの変更や新しい種目を考案。
- ・修学旅行は、小中学校ともに県内を中心としたものに変更。県内に変更されたことで、地域を再発見することができ、三重のよさを改めて感じた子どももいた。
- ・部活動は、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」及び「県立学校における新型コロナウイルス

感染症対策ガイドライン」等を参考に活動を継続。地区大会を、時期をずらして実施。

## ② 教育委員会の取組

### ア 学習保障に係る人的支援等

#### ○ 非常勤講師の配置

- ・市町の要望を基に、週8時間勤務の非常勤講師を39人配置し、児童生徒の状況に応じた少人数指導や個別的な指導を行っています。

#### ○ 学習指導員の配置

- ・国の補助制度などを活用して223校319人（9月末現在）の学習指導員が放課後等における補充的学習を行っています。

#### ○ スクール・サポート・スタッフの追加配置

- ・6学級以上の小中学校308校に対し、感染拡大防止を徹底するため、国の補助制度を活用し多くの子どもたちが触れる場所の消毒や登校時の健康観察、授業や家庭学習に係る教材準備の補助などを行っています。

#### ○ 外国人や学校外での補充学習に対する支援

- ・小中学校の再開に伴い、外国人児童生徒等が円滑に学校生活に適應できるようにするため、学習支援や適應指導を行う母語支援員を配置する市町を支援します。
- ・小中学校の再開に伴い、子どもたちを対象として、国の補助を受けているかに関わらず、学校外で補助的な学習を行う取組に対し、運営に係る経費の補助を行う市町を支援します。

### イ 新型コロナウイルス感染症に係る偏見、いじめ・差別をなくすための取組

- ・子どもたちが新型コロナウイルス感染症に係る偏見やいじめ・差別に気づき、それらをなくすための行動がとれる力を身に付けられるよう、子どもの発達の段階を踏まえた人権学習指導資料を作成し、県内全ての小中高等学校に配付しました。
- ・学校では、道徳や人権学習の時間に上記の資料を活用した授業が行われ、子どもたちは、新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、自分たちに何ができるかなどを考えることができました。

### ウ 子どもたちの学力・学習状況の把握

#### i) みえスタディ・チェックの実施

- ・本県では、子どもたちの学習内容の定着状況を把握し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導につなげるため、県独自の学力調査「みえスタディ・チェック」を年2回（4月、1月）に実施しています。

第1回（4月） 対象学年：小学校第4学年、第5学年 中学校第1学年、第2学年  
対象教科：国語、算数・数学、理科  
出題範囲：前学年までの学習内容

第2回（1月） 対象学年：小学校第5学年 中学校第2学年  
対象教科：国語、算数・数学、(理科)  
出題範囲：当該学年の12月末までの学習内容

- ・令和2年度第1回みえスタディ・チェックは、学校再開後の状況を鑑み、実施期間を広げ、各学校の状況に応じて実施しました。

#### <改善が見られた内容（小学校算数を例に）>

- ・これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本県では、算数・数学において「割合・図形」が経年的に課題となっています。この状況を踏まえ、各回の

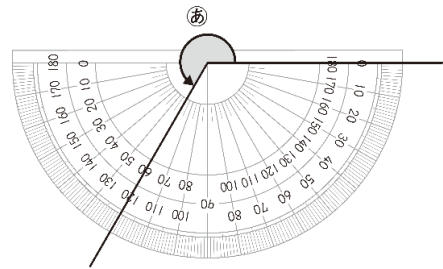
みえスタディ・チェックの中で、同一・同趣旨の問題を繰り返し出題し、改善状況を把握しています。

- ・今回の算数において、割合の学習の基礎となる「割り算の考え方を問う」問題（小4、小5で出題）や図形の学習に必要な「 $180^\circ$ 以上の角の大きさを問う」問題（小5で出題）で改善が見られます。

### <小5で出題>

- (3) 答えが $4.2 \div 6$ の式で求められる問題を、下のアからエまでの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。
- (2) ㊸の角の大きさは何度ですか。答えを書きましょう。

- ア** ジュースが4.2Lあります。  
このジュースを6人に等しく分けると、1人分は何Lになりますか。
- イ** ロープを切って、4.2mのロープを6本作ります。  
ロープは全部で何mありますか。
- ウ** 水を6つのバケツに等しく分けたら、1つ分が4.2Lになりました。  
はじめに水は何Lありましたか。
- エ** 6mの重さが4.2kgのパイプがあります。  
このパイプ1mの重さは何kgですか。



正答率 56.5% (過去の正答率 28.9%)  
※4年生で学習

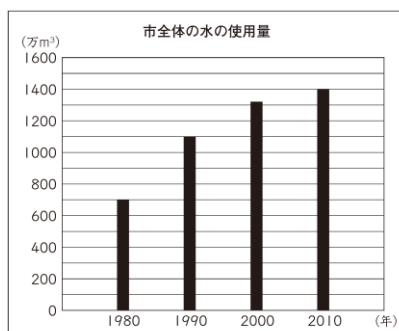
正答率 47.4% (過去の正答率 37.7%)  
※4年生で学習

### <課題が見られた内容（小学校算数を例に）>

- ・経年的課題である「割合・図形」の問題のうち、2年生や3年生の学習内容を踏まえた問題において、正答率が前回から大きく低下しています。
- ・全国学力・学習状況調査では、正答率50%以上の問題は、比較的課題を克服しやすいと推測される問題としていることから、今後、子どもたち一人ひとりに学習内容を確実に定着させるため、各学年の学習内容の積み上げを意識した授業における繰り返し指導や習熟度別指導、補充学習、家庭学習などの取組が必要です。

### <小5で出題>

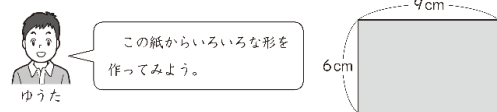
- (2) かいとさんたちは、水を大切に使うのかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、これまでに水をどのくらい使っているのかを調べ、グラフにまとめました。



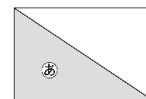
グラフの、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。  
答えを書きましょう。

正答率 60.3% (過去の正答率 82.1%)  
※3年生で学習 (棒グラフの読み取り)  
4年生で学習 (割り算)

- 4 ゆうたさんたちは、たて6cm、横9cmの長方形の紙を使って、いろいろな形を作ろうとしています。



- (1) ゆうたさんは、上の長方形を、下の図のように1本の対角線で切ります。



このときにできる㊸の部分の図形の名前を、下のアからオまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア** ひし形  
**イ** 長方形  
**ウ** 正方形  
**エ** 直角三角形  
**オ** 二等辺三角形

正答率 70.8% (過去の正答率 78.6%)  
※2年生で学習

ii) 「学習や生活についてのアンケート」(対象：小6、中3)の実施

- ・全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査とあわせて子どもたちの学習意欲や学習方法、学習環境、生活等に関する質問紙調査が実施されています。
- ・今年度の全国学力・学習状況調査が中止になったことから、県教育委員会として以下の調査を実施し、9月に市町教育委員会に結果を提供しました。

対象学年：小学校第6学年 中学校第3学年

質問内容：学習意欲や学習習慣に関する内容(16項目)

実施期間：令和2年7月1日～7月31日

＜改善が見られた項目(前年度との比較において大きく改善した項目)＞

- ・平日の学習時間(1時間以上)【中学生】(+9.8ポイント)
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している【中学生】(+4.5ポイント)
- ・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる【小学生】(+5.1ポイント)
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる【中学生】(+4.7ポイント)

※小中学生ともに、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と肯定的な回答をした子どもが増えています。このことは、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について、学校が積極的に取組を進めた成果であると考えます。

＜課題が見られた項目(前年度との比較において大きく下降した項目)＞

- ・家で、自分で計画を立てて勉強している【小学生】(-8.7ポイント)
- ・これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う【中学生】(-4.6ポイント)
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している【小学生】(-4.1ポイント)
- ・将来の夢や目標を持っている【小学生】(-3.9ポイント)

※小学生の学習習慣や意識に係る質問項目で下降しています。とりわけ「家で、自分で計画を立てて勉強している」が8.7ポイントも下降しています。

＜主な質問項目の結果(過去3年間の結果を含む)＞

\*数値は、肯定的な回答をした児童生徒の割合、( )の数値は、全国との差を示します。

ア 自己肯定感、達成感等に関する状況

- ・「自分にはよいところがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」において、肯定的な回答割合が小学生は昨年度より減少し、中学生は増加しています。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より減少しています。

○自分にはよいところがある

	H29	H30	H31	R2
小学生	77.4(-0.5)	83.4(-0.6)	80.1(-1.1)	79.1
中学生	73.2(+2.5)	79.9(+1.1)	74.9(+0.8)	79.1

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある

	H29	H30	H31	R2
小学生	95.1(+0.3)	—	95.3(+0.1)	92.8
中学生	95.5(+0.8)	—	94.3(+0.4)	93.2

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している

	H29	H30	H31	R2
小学生	78.1(+0.7)	—	78.7(-0.3)	74.6
中学生	73.2(+2.2)	—	70.7(+0.4)	73.0

イ 学習習慣等に関する状況

- ・「平日の学習時間（1時間以上）」「家の人との対話」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より増加しています。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」において、肯定的な回答割合が小学生は昨年度より減少し、中学生は増加しています。

○平日の学習時間（1時間以上）

	H29	H30	H31	R2
小学生	61.6(-2.8)	62.7(-3.5)	64.2(-1.9)	67.1
中学生	66.5(-3.1)	67.5(-3.1)	67.5(-2.3)	77.3

○家で自分で計画を立てて勉強している

	H29	H30	H31	R2
小学生	62.8(-1.7)	67.6(±0)	71.7(+0.2)	63.0
中学生	54.3(+2.8)	54.8(+2.7)	52.6(+2.2)	57.1

○家の人との対話

	H29	H30	H31	R2
小学生	77.6(-0.5)	80.0(-0.5)	76.6(-0.8)	78.0
中学生	74.0(-0.3)	75.4(-0.6)	76.0(-0.4)	77.7

## 2 今後の取組

### (1) 新たな取組

#### ① 新型コロナウイルス感染症の影響下における指導による学習内容の理解・定着状況の把握（11月～12月）

- ・通常の年とは異なる状況において、学習進度は多くの学校で例年通りになりつつありますが、学習内容の理解・定着が重要であることから、昨年度3月から本年度10月までの各単元の基本的な学習内容で構成した「たしかめプリント」を下記の学年・教科で作成し、10月下旬に全小中学校に提供しました。

学年：小学校第4学年・第5学年・第6学年、中学校第1学年・第2学年・第3学年

教科：国語、算数・数学、理科

- ・各学校が「授業改善サイクル支援ネット」（自校採点支援ツール）に入力できるようにし、学校別、市町別、県全体の結果を確認します。（11月～12月）

#### ② 市町への支援（11月から）

- ・たしかめプリントの結果や第1回みえスタディ・チェックの問題のうち、昨年度（または一昨年度）第1回に出題した同一問題で、正答率を比較検証した結果をもとに、市町教育委員会を訪問します。課題の改善方策として、基本問題プリント集を提供し、具体的取組内容（いつ、どんな場面で、どのように活用するのか）を紹介しながら、下半期の学力の定着・向上に向けた取組やスケジュールについて協議します。また、12月は、学習の積み上げが大きく影響する「割合」を指導する時期であることから、「育成カリキュラム」を参考に指導するようアドバイスします。
- ・市町教育委員会の指導主事を対象としたオンラインによる学力向上推進会議をグループ別に開催（11月から各月1回程度実施）します。オンライン会議では、成

果を上げている市町教育委員会の取組事例を紹介したり、各市町教育委員会の年度末までの取組について協議したりします。

各回の主な内容

- 11月：たしかめプリントの結果及び学校への支援内容について  
第1回みえスタディ・チェックの結果のS-P表を活用したつまずきの克服について
- 12月：令和2年度全国学力・学習状況調査問題の活用方法について（いつ、どんな場面で、どのように活用するのか）
- 1月：第2回みえスタディ・チェックを活用した取組について
- 2月：令和2年度第2回みえスタディ・チェックの結果を踏まえた年度内の取組について
- 3月：年度初めの取組について

③ 教職員への支援（11月から）

ア 市町教育委員会が開催する教職員対象の研修会及び授業実践研修での説明（随時）

- ・各学校の校長または学力向上推進担当者を対象とした研修会（市町教育委員会主催）に県指導主事等が出向き、授業改善や課題克服に向けた取組について説明します。基本問題プリント集や育成カリキュラムを配付し、活用方法について説明します（12月～3月随時）。また、研修担当（総合教育センター）が実施する授業実践研修においても、上記と同様の説明をします。

イ 学習内容の定着を図る取組事例に学ぶオンライン研修会の開催（1月）

- ・小5、中2の担任や学力向上推進担当者等を対象として、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック、ワークシートを活用した学習内容の定着を図る取組事例について、成果を上げている学校の取組に学ぶ研修会をオンラインで開催します。
- ・オンライン研修会の際に、基本問題プリント集の活用方法、ダウンロードの方法について説明します。

(2) これまでの取組に改善を加えて（下線部が改善を加えた点）

① 第2回みえスタディ・チェックの実施（1月～2月）

- ・通常年の12月末までの学習内容のうち、身に付けておかなければ後の学年の学習に影響を及ぼす基本問題や本県の経年的課題（国語：読む力・伝える力、算数・数学：割合・図形）の理解・定着状況を過去の状況と比較検証できるよう「みえスタディ・チェック」を下記の学年・教科で実施期間を広げて（1月～2月）行います。

学年：小学校第5学年、中学校第2学年

教科：国語、算数・数学

- ・市町教育委員会に対して、実施前（12月）に所管する小中学校の設問別の過去の正答率がわかる資料を提供するとともに、実施後（2月末）には、所管する小中学校の設問別の過去からの改善状況がわかる資料を提供します。
- ・各市町別に過去からの改善状況を把握して、その状況に応じて市町教育委員会を訪問し、課題の改善方策として、基本問題プリント集を提供し、具体的取組内容を紹介しながら、年度末・年度初めの学力の定着・向上に向けた取組・スケジュールについて協議します。

② 基本問題プリント集の提供（2月）

- ・小5・中2の児童生徒を対象とした、身に付けておかなければ最終学年の学習に影響を及ぼす基本問題で構成したプリント集（国語、算数・数学）を県内全小中学校

に提供します。また、市町教育委員会が開催する教職員対象の研修会や授業実践研修、学校訪問などで教職員に直接配付し、活用方法について説明します。

### ③ 市町教育委員会と連携した小中学校訪問（2月）

- ・例年、市町教育委員会と連携した小中学校訪問（2学期、3学期、次年度当初）を実施しています。今年度の3学期の訪問では、第2回みえスタディ・チェックの結果を踏まえた年度末、年度初めの取組やスケジュールについて、学校・市町教育委員会・県教育委員会の三者で協議します。
- ・小5、中2の授業参観（国語、算数・数学）を行い、授業者と懇談を行います。懇談では、授業方法について指導・助言するとともに、基本問題プリント集等を提供して、活用方法について説明し、継続的に活用するようアドバイスしながら年度末の取組内容について協議します。
- ・第2回みえスタディ・チェックの結果の状況に応じて、訪問校数を増やして市町教育委員会と連携した学校訪問を追加実施します。

\*教育支援事務所所管の学校と実践推進校についても、第2回みえスタディ・チェックの結果を踏まえ、通常の訪問の中で、上記と同様の内容で実施します。

### ④ S-P表（学校/学級別解答状況整理表）の活用の促進

- ・今年度から、子どもたち一人ひとりのつまずきの状況を把握し、各学校が一人ひとりの状況に応じた指導が行えるよう、授業改善サイクル支援ネットで学校別・学級別のS-P表（別紙参照）を提供しています。
- ・市町教育委員会の指導主事を対象としたオンライン会議や学校訪問において、みえスタディ・チェック結果のS-P表の効果的な活用方法について説明し、各学校の課題克服に向けた取組の重点化を図ります。

### ⑤ オンラインによる校長研修会の実施（4月上旬）

- ・調査問題を活用した授業改善、学習内容の理解・定着を図る取組を促進するため、公立小中学校長を対象としたオンライン研修会を実施し、全国学力・学習状況調査やワークシート等を活用した学力向上の取組事例（小学校2校、中学校1校の校長から報告）を紹介します。

## (3) ICTを活用した教育について

令和3年度までに、小中学校で1人1台端末が整備される予定です。各市町教育委員会では、ICTを効果的に活用した教科指導等が4月から各学校で円滑に実施されるよう、各学年の授業における活用場面等を示したカリキュラムの作成や、民間企業の学習教材を活用した実践を進めているところです。

今後、全ての市町において、その効果的な活用が図られるよう、市町教育委員会のニーズや課題を丁寧に把握し、必要な支援に取り組みます。

### ① 1人1台端末の効果的な活用を推進するための教職員研修

全ての教職員が1人1台端末を効果的に活用するためのスキルを習得できるよう、今年度6月以降、Web会議システムの基本操作や実践事例に関する研修のほか、1人1台端末を使用した協働学習や探究型授業展開について学ぶ研修等、ICT活用に関する研修を継続的に実施しています。

＜今年度開催のオンライン教育関係の研修＞

- ・ 6月19日 Web会議システムを使用し、「オンライン授業の進め方」についての研修会を実施
- ・ 7月30日 オンライン研修で、クラウドを活用した実践事例等を学ぶ研修を実施
- ・ 8月7日 Web会議システムの具体的な操作方法やオンライン授業について学ぶ研修を実施
- ・ 8月17日 情報モラル教育について学ぶ研修を実施
- ・ 9月18日 1人1台端末を活用した協働学習について学ぶ研修を実施
- ・ 9月25日 熊本市の事例を基にICTを活用した授業改善の取組について学ぶ研修を実施
- ・ 10月23日 県内の小学校でのオンライン授業の実践事例をもとに協議を行う研修を実施  
以降、「1人1台端末活用講座」を毎月実施 (①10/30 ②11/27 ③12/4 ④12/10  
⑤12/11 ⑥1/15 ⑦1/29 ⑧2/18 ⑨2/26 ⑩3/5)
- ・ 8月～12月 市町教育委員会と連携した「地域開催講座」として、ICTを活用した探究型の授業展開について学ぶ「教員ICT活用指導力向上講習会」を実施

(10月末までの状況 9月 紀北町・尾鷲市、津市 10月 伊賀市)

## ② 「小中学校におけるICT教育推進連絡会議」による協議

来年度4月から、全ての市町で、ICTを効果的に活用した教育が実施できるよう9月29日に県教育委員会と全ての市町教育委員会が参加し、取組内容を協議する「小中学校におけるICT教育推進連絡会議」（以下「連絡会議」という）を設置しました。

第1回連絡会議では、松阪市のICTを活用した教育活動の取組実践事例の発表や、各市町の意見交換を行いました。意見交換では、「端末を効果的に活用した授業作りに係る研修を大切にしていきたい。」「教材のコンテンツ等を市町間や学校間で共有できる仕組みがあるとよい。」といった意見が出されました。

今後、月1回程度開催し、効果的な活用方法や留意点について協議していきます。

現在、令和3年4月から1人1台端末を効果的に活用した教育活動が各学校で円滑に行われるよう作成している、1人1台端末の活用による「教育活動の展開例」及び「授業展開例」や、各学年における情報活用能力育成の段階表（案）等についても、連絡会議で学校が活用しやすいものになるよう協議していきます。

あわせて、三重県総合教育センターのホームページにICT活用事例等をオンデマンドで提供していく予定です。

## ③ 民間の専門人材の活用

効果的なICT利活用のあり方やセキュリティ面で助言をいただく民間IT人材および大学の研究員2名を10月1日からアドバイザーとして委嘱し、市町教育委員会の要望に応じ、セキュリティ対策、教育コンテンツの選定、オンライン教育や授業での効果的な活用について専門的な支援を行っています。

## ④ みえスタディ・チェックのCBT (Computer Based Testing) での実施

令和3年度第2回（令和4年1月実施）から、みえスタディ・チェックをCBT (Computer Based Testing) で実施し、解答後すぐに問題の正解・不正解に対応したワークシートが学習端末に提供され、繰り返し学んだり、学年を遡って学んだりできるシステムにより、タイムラグなく、学び直しができるようにしていくことを検討しています。



## 児童生徒の学習状況等についてのアンケート結果

### 1 調査の概要

#### (1) 実施期間

令和2年7月1日（水）～令和2年7月31日（金）

#### (2) 対象

小学校第6学年、中学校第3学年

### 2 調査結果 ※数値は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示します。（ ）の数値は、全国との差を示します。

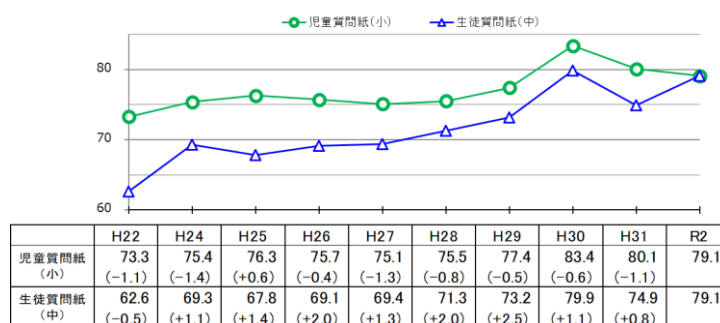
#### (1) 自己肯定感、達成感等に関する状況

- 「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」において、肯定的な回答割合が小学生は昨年度より減少し、中学生は増加しています。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「将来の夢や目標を持っている」「学校のきまり（規則）を守っている」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より減少しています。

#### ①自分にはよいところがある

	H29	H30	H31	R2
小学生	77.4(-0.5)	83.4(-0.6)	80.1(-1.1)	79.1
中学生	73.2(+2.5)	79.9(+1.1)	74.9(+0.8)	79.1

※同一児童生徒による比較：H29小6 77.4% → R2中3 79.1% (+1.7)



#### ②先生は、あなたのよいところを認めてくれている

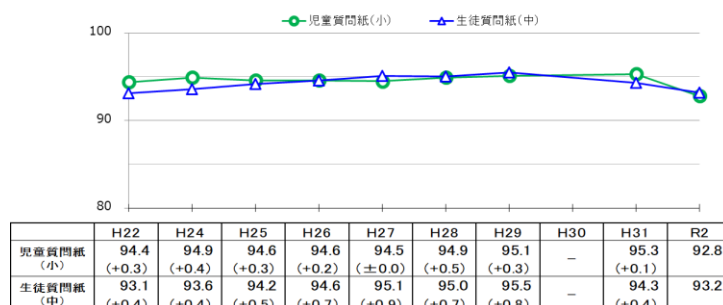
	H29	H30	H31	R2
小学生	87.2(+1.2)	86.4(+1.1)	87.8(+1.7)	86.8
中学生	82.2(+1.8)	84.2(+2.0)	83.1(+1.6)	87.1

※同一児童生徒による比較：H29小6 87.2% → R2中3 87.1% (-0.1)

③ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある

	H29	H30	H31	R2
小学生	95.1(+0.3)	—	95.3(+0.1)	92.8
中学生	95.5(+0.8)	—	94.3(+0.4)	93.2

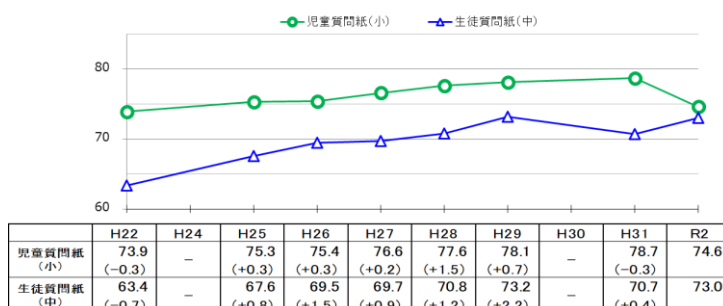
※同一児童生徒による比較：H29 小6 95.1% → R2 中3 93.2% (-1.9)



④難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している

	H29	H30	H31	R2
小学生	78.1(+0.7)	—	78.7(-0.3)	74.6
中学生	73.2(+2.2)	—	70.7(+0.4)	73.0

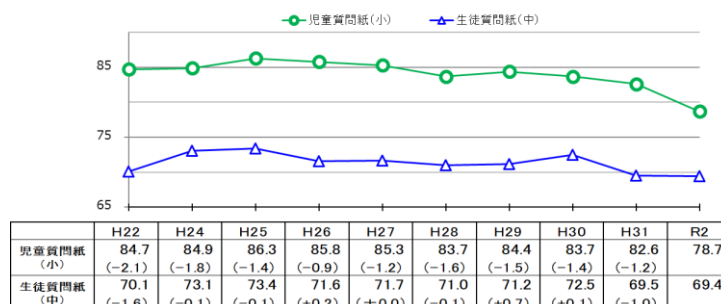
※同一児童生徒による比較：H29 小6 78.1% → R2 中3 73.0% (-5.1)



⑤将来の夢や目標を持っている

	H29	H30	H31	R2
小学生	84.4(-1.5)	83.7(-1.4)	82.6(-1.2)	78.7
中学生	71.2(+0.7)	72.5(+0.1)	69.5(-1.0)	69.4

※同一児童生徒による比較：H29 小6 84.4% → R2 中3 69.4% (-15.0)



⑥先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

	H29	H30	H31	R2
小学生	87.7(+2.6)	—	94.2(+2.5)	91.4
中学生	79.3(+3.8)	—	87.5(+2.9)	89.3

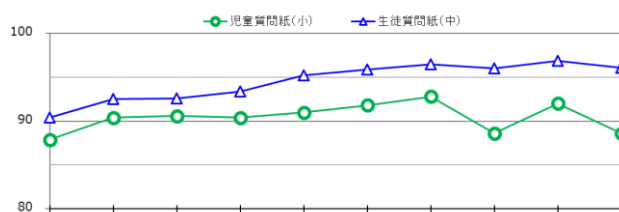
※同一児童生徒による比較：H29 小6 87.7% → R2 中3 89.3% (+1.6)

※規範意識

学校のきまり（規則）を守っている

	H29	H30	H31	R2
小学生	92.8(+0.2)	88.6(-0.9)	92.0(-0.3)	88.6
中学生	96.5(+1.3)	96.0(+0.9)	96.9(+0.7)	96.1

※同一児童生徒による比較：H29 小6 92.8% → R2 中3 96.1% (+3.3)



	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
児童質問紙(小)	87.9 (-1.3)	90.4 (-0.9)	90.6 (±0.0)	90.4 (-0.1)	91.0 (-0.1)	91.8 (+0.3)	92.8 (+0.2)	88.6 (-0.9)	92.0 (-0.3)	88.6
生徒質問紙(中)	90.4 (+0.3)	92.5 (+0.2)	92.6 (+0.1)	93.4 (+0.4)	95.2 (+0.8)	95.9 (+1.2)	96.5 (+1.3)	96.0 (+0.9)	96.9 (+0.7)	96.1

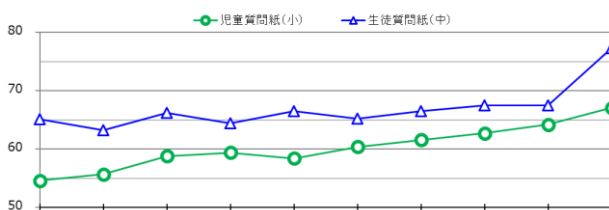
## (2) 学習習慣・読書習慣等に関する状況

- 「平日の学習時間（1時間以上）」「家の人との対話」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より増加しています。
- 「家で自分で計画を立てて勉強している」「授業時間以外の読書時間（平日10分以上）」において、肯定的な回答割合が小学生は昨年度より減少し、中学生は増加しています。

### ①平日の学習時間（1時間以上）

	H29	H30	H31	R2
小学生	61.6(-2.8)	62.7(-3.5)	64.2(-1.9)	67.1
中学生	66.5(-3.1)	67.5(-3.1)	67.5(-2.3)	77.3

※同一児童生徒による比較：H29 小6 61.6% → R2 中3 77.3% (+15.7)

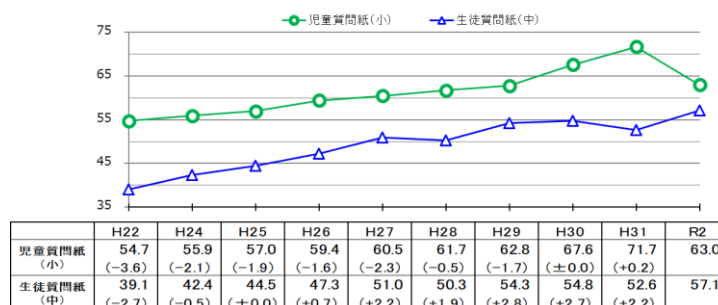


	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
児童質問紙(小)	54.6 (-3.6)	55.7 (-3.8)	58.8 (-4.4)	59.4 (-2.6)	58.4 (-4.3)	60.4 (-2.1)	61.6 (-2.8)	62.7 (-3.5)	64.2 (-1.9)	67.1
生徒質問紙(中)	65.1 (-1.1)	63.2 (-3.2)	66.2 (-2.4)	64.4 (-3.5)	66.5 (-2.5)	65.2 (-2.7)	66.5 (-3.1)	67.5 (-3.1)	67.5 (-2.3)	77.3

②家で自分で計画を立てて勉強している

	H29	H30	H31	R2
小学生	62.8(-1.7)	67.6(±0)	71.7(+0.2)	63.0
中学生	54.3(+2.8)	54.8(+2.7)	52.6(+2.2)	57.1

※同一児童生徒による比較：H29 小6 62.8% → R2 中3 57.1% (-5.7)



③授業時間以外の読書時間(平日 10 分以上)

	H29	H30	H31	R2
小学生	61.8(-1.5)	64.4(-1.8)	63.9(-1.8)	62.1
中学生	47.7(-3.7)	49.6(-3.9)	45.5(-4.9)	46.3

※同一児童生徒による比較：H29 小6 61.8% → R2 中3 46.3% (-15.5)

④家の人との対話

	H29	H30	H31	R2
小学生	77.6(-0.5)	80.0(-0.5)	76.6(-0.8)	78.0
中学生	74.0(-0.3)	75.4(-0.6)	76.0(-0.4)	77.7

※同一児童生徒による比較：H29 小6 77.6% → R2 中3 77.7% (+0.1)

(3) 教科に対する興味関心の状況

○「国語の勉強は好きだ」「算数・数学の勉強は好きだ」において、肯定的な回答割合が小学生は昨年度より減少し、中学生は増加しています。中学生は、平成 29 年度以降、肯定的な回答割合が最も高くなっています。

①国語の勉強は好きだ

	H29	H30	H31	R2
小学生	58.0(-2.5)	—	61.6(-2.6)	60.6
中学生	58.1(-2.4)	—	60.7(-1.0)	61.6

※同一児童生徒による比較：H29 小6 58.0% → R2 中3 61.6% (+3.6)

②算数・数学の勉強は好きだ

	H29	H30	H31	R2
小学生	66.7(+0.8)	64.0(+0.9)	70.1(+1.5)	69.5
中学生	57.7(+2.3)	54.4(+0.5)	60.2(+2.3)	64.0

※同一児童生徒による比較：H29 小6 66.7% → R2 中3 64.0% (-2.7)

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より減少しています。
- 「学級の友だちと（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに平成 29 年度以降、最も高くなっています。

①これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

	H29	H30	H31	R2
小学生	—	75.1(-1.6)	77.5(-0.2)	74.4
中学生	—	75.3(+1.5)	77.6(+2.8)	73.0

②学級の友だちと（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

	H29	H30	H31	R2
小学生	67.3(-0.9)	76.4(-1.3)	73.4(-0.7)	78.5
中学生	64.5(-0.3)	76.5(+0.2)	74.2(+1.4)	78.9

※同一児童生徒による比較：H29 小6 67.3% → R2 中3 78.9% (+11.6)

(5) 地域との関わりに関する状況

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」において、肯定的な回答割合が小中学生ともに昨年度より減少しています。

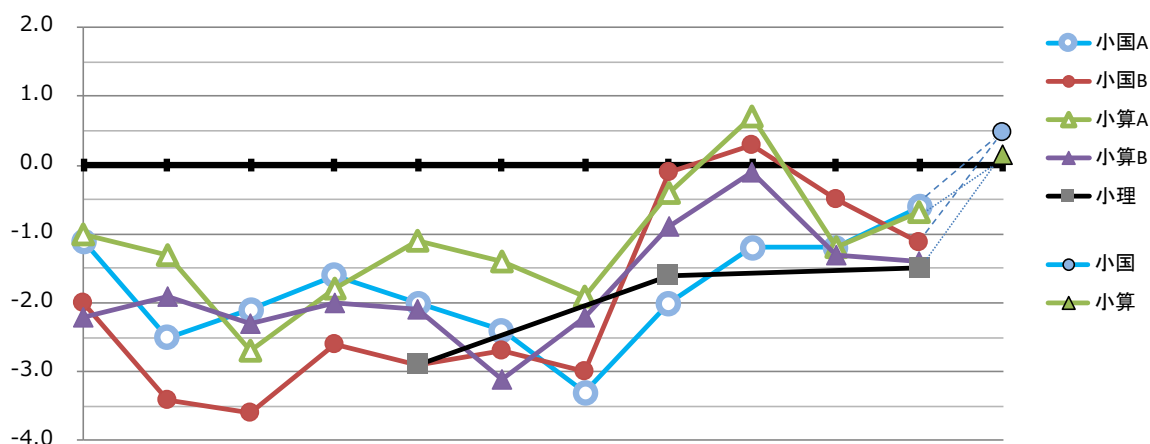
①今住んでいる地域の行事に参加している

	H29	H30	H31	R2
小学生	68.3(+5.7)	66.7(+4.0)	74.1(+6.1)	71.1
中学生	47.2(+5.1)	49.6(+4.0)	56.8(+6.2)	54.4

※同一児童生徒による比較：H29 小6 68.3% → R2 中3 54.4% (-13.9)

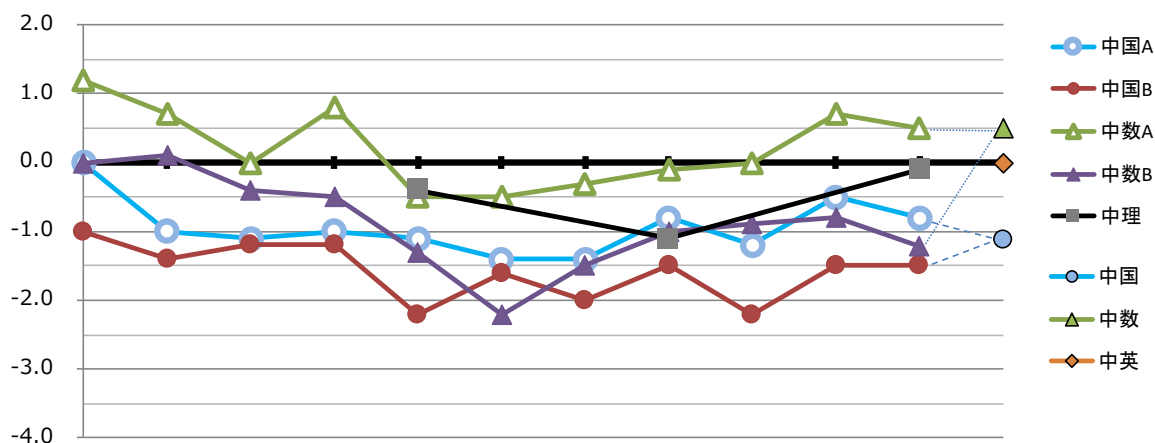
## 全国学力・学習状況調査の各教科平均正答率の全国平均との差の推移

### <小学校6年生>



	H19	H20	H21	H22 (抽出)	H24 (抽出)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
小国A	-1.1	-2.5	-2.1	-1.6	-2.0	-2.4	-3.3	-2.0	-1.2	-1.2	-0.6	0.4
小国B	-2.0	-3.4	-3.6	-2.6	-2.9	-2.7	-3.0	-0.1	0.3	-0.5	-1.1	
小算A	-1.0	-1.3	-2.7	-1.8	-1.1	-1.4	-1.9	-0.4	0.7	-1.2	-0.7	0.1
小算B	-2.2	-1.9	-2.3	-2.0	-2.1	-3.1	-2.2	-0.9	-0.1	-1.3	-1.4	
小理					-2.9			-1.6			-1.5	

### <中学校3年生>



	H19	H20	H21	H22 (抽出)	H24 (抽出)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
中国A	0.0	-1.0	-1.1	-1.0	-1.1	-1.4	-1.4	-0.8	-1.2	-0.5	-0.8	-1.1
中国B	-1.0	-1.4	-1.2	-1.2	-2.2	-1.6	-2.0	-1.5	-2.2	-1.5	-1.5	
中数A	1.2	0.7	0.0	0.8	-0.5	-0.5	-0.3	-0.1	0.0	0.7	0.5	0.5
中数B	0.0	0.1	-0.4	-0.5	-1.3	-2.2	-1.5	-1.0	-0.9	-0.8	-1.2	
中理					-0.4			-1.1			-0.1	
中英												0.0

(注) 全国平均を0.0とした場合の推移

## 学校/学級別解答状況整理表（S-P表）について

## 1 S-P表の概要

S-P（エス・ピー）表とは、学校や学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒（S:Student）と設問（P:Problem）の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、S曲線（点線）とP曲線（実線）を書き入れたものであり、これを活用することにより、平均正答率だけでは把握できない、学校や学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができます。

## 2 S-P表の見方

- 児童生徒は、正答数の多い順に、上から下へ並べたものです。
- 問題番号は、県正答率の高い順に、左から右に並べたものです。
- 児童生徒と問題番号が交差する欄には、各設問の解答類型を記入しています。
- 各設問について、表の左からそれぞれの児童生徒の正答数だけマス目を数えたところに、区切りの線を書き入れ、全ての児童生徒の区切り線と結ぶとS曲線（点線）が出来上がります。
- 各設問について、表の上からそれぞれの設問の正答数だけマス目を数えたところに、区切りの線を書き入れ、全ての設問の区切りの線と結ぶとP曲線（実線）が出来上がります。なお、県正答率を細点線で表示しています。

→S曲線（点線）の位置からは児童生徒の達成水準が、形からは達成度の分布を読み取れます。

P曲線（実線）の位置からは調査問題の正答率が、形からは設問ごとの難易度がわかります。

S曲線とP曲線の形状や離れ具合を見ることで全体の課題がわかります。

## 3 活用方法

①県の傾向との比較

②学校・学級ごと、児童生徒ごとの「重点的に指導すべきと考えられる設問」の把握等により、学習上の課題を明らかにし、教育指導の改善・充実に活用

## S-P表の例

問題番号	4(2)	3(1)	4(1)	3(2)	1(1)	5(1)	2(1)	3(1)	4(2)	5(2)	6(1)	7(1)	8(1)	9(1)	10(1)	11(1)	12(1)	13(1)	14(1)	15(1)	16(1)	17(1)	18(1)	19(1)	20(1)	21(1)	22(1)	23(1)	24(1)	25(1)	26(1)	27(1)	28(1)	29(1)	30(1)			
領域	2	4	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
概要																																						
県平均正答率	87.0	86.3	74.6	70.5	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	
人数の割合	76.2	76.2	47.6	90.5	90.5	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	57.1	
正答人数	16	16	10	19	19	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
学年	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
組	17	10	19	21	14	8	3	5	9	15	18	13	11	15	18	13	11	15	18	13	11	15	18	13	11	15	18	13	11	15	18	13	11	15	18	13	11	15
番号																																						
氏名記入欄																																						
付記																																						

正答数が多い子は、解答類型2、3の誤答が多い。  
正答数が少ない子は、解答類型4の誤答が多い。  
だれが、何でもつまずいているかの把握により、課題に応じた授業改善や、個のつまずきに応じた手立てが明確になります。

不注意による誤答や比較的克服が容易なものと考えられる問題がわかります。

どちらも、正答した人数は同じですが  
3(2)→正答数が少ない子の理解・定着が図られている。  
1(1)→正答数が少ない子にとって難しい問題であることがわかります。

誤答のうち、半数以上が無解答であることがわかります。

※表中の「1」は正答、「2、3、4、5、9」は誤答、「0」は無解答を表しています。

問題番号		4(2)	3(1)	4(1)	3(2)	1(1)	5(1)	1(2)	5(3)	2(2)	5(2)いうえ	1(3)	5(2)あ	2(1)	3(3)	4(3)	5(2)お				
領域		2	4	3	4	1	4	1,4	4	2	4	1,4	4	1	1,4	2	4				
概要		示された図形の面積を求めるゆうたさんの考えに基づき、式を書く	パンジーの数を求める3つの式(4×5=20, 3×4=12, 20+12=32)を1つの式で表す	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選択する	白いパンジーの1列が4株あるとして立てた式を選択する	6.79-0.8を計算する	折れ線グラフから、気温が何度上がったかを読み取る	棒グラフから数値を読み取り、2010年の使用量は1980年の使用量の約何倍かを求める	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフからわかることを選択する	180°以上の角の大きさを求める	「あ」で市を選択する際に着目した点について、折れ線グラフから1時間の気温の変化を読む	4.2÷6の式で求められる問題をすべて選択する	折れ線グラフと棒グラフを対応させ、折れ線グラフがどの市のものであるかを選択する	色をぬった部分の長さが3/4mのテープを選択する	たくみさんの説明をもとに、白いパンジーが何かを必要かを求める方法を説明する	6+12+18が表していることを、言葉や数を使って説明する	「あ」で選択した市を選択した理由を、折れ線グラフで注目した点と各市の棒グラフを対応させて説明する				
県の平均正答率		87.0%	86.3%	74.6%	70.5%	66.6%	66.5%	62.8%	60.9%	57.1%	52.5%	52.5%	34.6%	34.6%	27.6%	26.7%	22.2%				
貴校の平均正答率		76.2%	76.2%	47.6%	90.5%	90.5%	57.1%	81.0%	71.4%	52.4%	57.1%	28.6%	47.6%	33.3%	42.9%	57.1%	14.3%				
正答人数		16	16	10	19	19	12	17	15	11	12	6	10	7	9	12	3	合計			
学年	組	個人票コード	氏名記入欄	付記欄	解答類型(0は無解答を表す)														正答数	正答率	
5	1	17			1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1	1	1	15	93.8%	
5	1	10			1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1	1	1	15	93.8%	
5	1	19			1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1	1	1	15	93.8%	
5	1	21			9	1	1	1	9	1	1	1	1	1	1	1	1	3	13	81.3%	
5	1	14			1	2	1	1	9	1	1	1	1	1	1	4	1	3	12	75.0%	
5	1	8			1	1	2	1	1	1	9	1	1	9	1	1	1	2	12	75.0%	
5	1	2			1	1	1	1	9	1	1	9	1	9	1	1	5	2	11	68.8%	
5	1	7			1	1	1	1	1	1	1	9	9	9	9	1	4	9	10	62.5%	
5	1	1			9	1	1	9	1	1	9	9	1	1	0	0	1	3	9	56.3%	
5	1	6			1	1	3	1	1	9	1	1	9	9	1	1	1	4	9	56.3%	
5	1	12			1	1	2	1	1	9	1	1	9	9	1	0	0	1	3	9	56.3%
5	1	4			1	1	3	9	1	1	1	9	9	1	1	1	1	2	8	50.0%	
5	1	20			1	1	9	1	1	9	9	1	1	9	9	9	5	1	4	8	50.0%
5	1	3			1	1	1	1	1	9	1	9	9	1	9	9	0	4	4	7	43.8%
5	1	16			1	9	3	1	1	1	1	1	9	9	9	9	5	4	7	43.8%	
5	1	5			1	1	3	1	1	1	1	9	9	9	0	9	9	3	7	43.8%	
5	1	9			9	2	3	1	1	9	1	1	1	9	0	0	1	4	7	43.8%	
5	1	15			1	1	3	1	1	1	9	1	9	9	9	4	2	4	6	37.5%	
5	1	18			9	1	0	1	1	1	9	1	9	9	9	9	2	9	6	37.5%	
5	1	13			9	2	1	1	9	9	1	9	9	9	0	0	4	2	4	4	25.0%
5	1	11			1	2	0	1	9	1	9	9	9	9	0	0	0	0	4	25.0%	